

3.2 各教員等の学会等での活動

各教員等が 2007 年 1 月～2008 年 12 月の間に行った学会等での活動内容。なお (a)～(e) の区分は以下のとおり。

- (a) 国際研究集会発表
- (b) 国内外委員会，雑誌エディタ等
- (c) 受賞
- (d) 発明特許
- (e) 共同研究

地球流動破壊部門

堀 宗朗

- (a) SAUS2007 (International Symposium on Advancement of Urban Safety), Nanjing, China, 15 Oct, 2007.
APCOM707-EPMSSEC XI, Kyoto, Japan, 3 Dec, 2007.
2nd Korean-Japan Workshop on Computational Mechanics, Seoul, Korea, 30 Aug, 2008.
IABSE08, Seoul, Korea, 15 Jul, 2008.
14 World Congress on Earthquake Engineering, Beijing, China, 15 Oct, 2008.
- (b) 日本計算数理工学会, 理事, 2001.4–2010.3.
Japanese Association of Computational Mechanics, 運営委員, 2002.12–2010.3.
土木学会応用力学論文集, 英文論文編集者, 2003.4–2007.3.
土木学会地震工学研究発表会論文集, 英文論文編集者, 2003.4–2007.3.
土木学会応用力学委員会確率小委員会, 委員長, 2004.4–2007.3.
土木学会調査企画研究部会, 幹事長, 2005.4–2007.3.
土木学会地震工学論文集, 委員長, 2006.10–2009.9.
Journal of Earthquake and Tsunami, Managing Editor, 2007.1–2012.1.
Journal of Seismology and Earthquake Engineering, Editorial Advisory Board, 2007.11–2012.10.
Journal of Earthquake Engineering and Structure Dynamics, Editor, 2008.9–2012.8.
防災科学技術研究所数値震動台開発研究分科会, 委員長, 2008.10–2011.3.

栗田 敬

- (a) EuroPlanet 2008, Munster, Germany, 24 Sep, 2008.
AGU Fall Meeting, San Francisco, USA, 15 Dec, 2008.
- (b) SEDI, Advisory Committee member, 2000.8–2008.8.
eEarth by European Geosciences Union, Editorial Board, 2006.4–2008.4.

島崎 邦彦

- (a) Earthquake Predictability and Time-Dependent forecasting, Ruschlikon, Switzerland, 29 Jan, 2007.
Statistical Seismology: Physical and stochastic modeling of earthquake occurrence and forecasting, Erice, Italy, 4 Jun, 2007.
The 3rd APRU/AEARU Research Symposium on Earthquake and Tsunami, Jakarta, Indonesia, 22 Jun, 2007.
7th General Assembly of Asian Seismological Commission, Tsukuba, Japan, 25 Nov, 2008.
- (b) (財) 震災予防協会, 理事, 2001.6–2010.5.
(社) 日本地震学会, 会長, 2006.5–2008.5.
(社) 日本地震学会 ASC08 組織委員会, 委員長, 2007.4–2009.3.
(社) 日本地震学会 ASC08 募金委員会, 委員, 2007.4–2009.3.
日本活断層学会, 監事, 2007.9–2008.5.
(社) 日本地震学会秋の学校委員会, 委員長, 2007.10–2008.3.
日本活断層学会, 副会長, 2008.5–2010.5.
(社) 日本地震学会, 代議員, 2008.5–2010.5.
- (c) 防災功労者防災担当大臣表彰, 9月6日, 2007.9.6.
アジア国際地震学連合 (ASC) 初代会長賞, 11月27日, 2008.11.27.

小国 健二

- (a) World forum on smart material and smart structures technology, Chongqing, China, 23 May, 2007.
- (b) 土木学会/固体の破壊現象に関する小委員会, 委員, 2001.4–2007.3.
土木学会/応用力学委員会 計算力学小委員会, 委員, 2004.8–2008.8.
土木学会/応用力学論文集編集委員会, 副査, 2007.2–2009.3.
土木学会/社会基盤センシング技術研究小委員会, 小委員長, 2007.4–2009.3.
土木学会/大学・大学院教育小委員会, 委員, 2007.4–2009.3.
土木学会/応用力学委員会, 幹事, 2007.4–2009.3.

武井 (小屋口) 康子

- (a) AGU fall meeting, San Francisco, USA, 10 Dec, 2007.
- (b) 地震学会, 代議員, 2003.4-
地震学会, 男女共同参画委員会コアメンバー, 2006.11-2007.3.

山科 健一郎

- (a) The 7th Asian Seismological Commission General Assembly, Tsukuba, Japan, 27 Nov, 2008.

平賀 岳彦

三浦 弥生

- (a) 71th Annual meeting of the Meteoritical Society, Matsue, Japan, 1 Aug, 2008.
- (b) 日本地球化学会, 和文誌「地球化学」編集委員会, 委員, 2006.1-2009.12.
- (e) 隕石母天体の角礫岩化にともなう物質分化過程の解明, 分担, 三澤啓司 (国立極地研究所), 38名, 1,475,000円, 2003.4-2008.3.
惑星進化過程および太陽系形成史の解明, 分担, 小島秀康 (国立極地研究所), 29名, 千円, 2004.4-2010.3.
次期小天体探査 WG サンプリング SG, 分担, 野口高明 (茨城大学) 土山明 (大阪大学) 矢野創 (JAXA/ISAS) ほか, 約30名, 千円, 2005.4-2009.3.

地球ダイナミクス部門

本多 了

- (a) IUGG 2007 Perugia, Perugia, Italy, 5 Jul, 2007.
7th General Assembly of Asian Seismological Commission, Tsukuba, Japan, Japan, 25 Nov, 2008.
2008 AGU Fall Meeting, San Francisco, United States of America, 15 Dec, 2008.
- (b) 男女共同参画推進委員会委員, 委員, 2006.4-2007.3.
男女共同参画推進委員会委員, 委員, 2007.4-2008.3.
- (e) 科学研究費 (特定領域研究) マントル下降流による熱・物質輸送と地球進化過程の数値モデリング, 分担, 浜野洋三 (代表: 東大・大学院理)・小河正基 (東大・大学院総合)・岩森光 (東大・大学院理)・柳澤孝寿 (海洋研究開発機構)・吉田晶樹 (海洋研究開発機構), 6名, 千円, 2004.4-2009.4.

小屋口 剛博

- (a) Work shop of explosive volcanism, Prescott, U.S.A., 31 Mar, 2007.
AGU Fall meeting, San Francisco, U.S.A., 11 Dec, 2007.
IAVCEI, Reykjavik, Iceland, 22 Aug, 2008.
- (b) Journal of Volcanological and Geothermal Research, 編集委員, 2002.4-.
- (e) 火山噴火のモデリングおよびその日本およびカムチャツカ地域の火山への応用, 代表, Oleg Melnik (モスクワ大学) ほか, 10名, 4651千円, 2005.9-2007.8.
火山噴火の数値シミュレーション, 代表, 鈴木雄治郎 (JAMSTEC) ほか, 20名, 454千円, 2007.11-.
噴火様式の多様性についての基礎的研究, 分担, 寅丸敦志 (金沢大理), 名, 千円, .
変形に伴う部分溶融体の構造変化についての実験的研究, 分担, 渡邊了 (富山大理), 名, 千円, .
火山爆発と蒸気爆発, 分担, 谷口宏充 (大阪府教育センター), 名, 千円, .

瀬野 徹三

- (b) 地学雑誌, 編集委員, 2006.4-2009.3.
日本地震学会, 代議員, 2007.4-2009.3.
- (c) AGU Excellence of Refereeing, 7月7日, 2007.7.7.
- (e) 沈み込みの研究の歴史, 分担, S. Kirby (U. S. Geol. Survey), 1名, 千円, 2006.10-2008.8.
プレート境界生成に関する研究, 代表, S. Kirby (U. S. Geol. Survey), 1名, 千円, 2006.12-2007.6.
琉球弧のスラスト型地震スリップベクトルの研究, 代表, 久保篤規 (高知大学), 1名, 千円, 2007.4-2007.11.
西南日本の内陸地震の研究, 分担, 吉田明夫 (なし), 1名, 千円, 2007.11-2008.10.
ヒンズークシ稍深発地震の成因に関する研究, 代表, Hafiz Ur Rehman (鹿児島大学地球環境学科), 2名, 千円, 2008.4-2010.3.

中井 俊一

- (b) 日本地球化学会, 評議員, 幹事, 2004.1-2007.12.
- (e) 同位体分析に基づくマントル物質の化学的進化過程の解明, 分担, 巽好幸・羽生毅・佐藤佳子・田村肇・熊谷英憲・西尾嘉朗・兼岡一郎・中井俊一・折橋裕二・三浦弥生, 10名, 万円千円, 2002.4-2008.3.
海洋プレートの屈曲部で生じるマグマの活動源を探る, 分担, 山本順司 (京大・地球熱学研究施設), 2名, 千円, 2006.4-2007.3.

高感度 XAFS 法によるウランの状態分析法の開発～マグマの年代測定に利用される $^{238}\text{U}/^{230}\text{Th}$ 放射非平衡の起源の解明～, 分担, 高橋嘉夫 (広島大・院理), 3 名, 千円, 2006.4–2007.3.
鍾乳岩の分析から見る固体地球変動研究, 分担, 田上高広 (京都大学理学研究科), 3 名, 千円, 2007.4–2008.3.
韓国及び九州北西部のアルカリ玄武岩を伴う火山岩の希土類元素測定, 分担, 小澤一仁 (東京大学理学系研究科), 3 名, 千円, 2007.4–2007.3.

安田 敦

- (b) 日本火山学会, ホームページ委員, 2004.7–2010.6.
日本火山学会, 理事, 2004.7–2010.6.
- (e) 火山噴火罹災地の埋没過程の復元と火山噴火推移の解析に関する研究, 分担, 藤井敏嗣 (代表: 東大地震研), 5 名, 千円, 2004.4–2010.3.
火口近傍の監視・計測プラットフォームの開発, 分担, 本多嘉明 (代表: 千葉大学) 他, 14 名, 千円, 2006.4–2009.3.
衛星画像データによる火山の赤外観測, 分担, 金子隆之 (東大地震研) 他, 6 名, 千円, 2006.4–2007.3.
衛星データによる東アジア活火山観測・防災ネットワークの構築, 分担, 金子隆之 (東大地震研: 代表) 他, 3 名, 千円, 2006.4–2010.3.
富士火山の形成に関する地質・岩石学的研究, 分担, 藤井敏嗣 (東大地震研), 上杉陽 (都留文科大) 他, 10 名, 千円, 2006.4–2010.3.
マグマ再現実験における酸化還元状態の制御法の検討, 分担, 山下茂 (岡山大学地球物質科学研究センター), 2 名, 千円, 2007.4–2008.3.
マグマ再現実験における酸化還元状態制御法の検討 (その 2), 分担, 山下茂 (岡山大学地球物質科学研究センター), 2 名, 千円, 2008.4–2009.3.

三部 賢治

- (a) EASSTEC symposium 2007 "Dynamic Earth-its origin and future-", Sendai, Japan, 18 Sep, 2007.
The 18th Annual V.M. Goldschmidt Conference, Vancouver, Canada, 14 Jul, 2008.
AGU Fall Meeting, San Francisco, USA, 17 Dec, 2008.

折橋 裕二

- (a) International Congress on the Geology and Geophysics of the Southern Hemisphere (GEOSUR 2007), Santiago, Chile Republic, 19 Nov, 2007.
The 18th Goldschmidt Conference, Vancouver, Canada, 18 Jul, 2008.
- (b) 2008 年度日本地球化学会年会準備委員会, 委員, 2008.1–2008.12.
日本地球化学会広報委員会, 委員, 2008.4–2010.3.
- (e) スラブメルトとマントルかんらん岩の反応機構の解明: 天然の岩石と高圧実験からの制約, 分担, 新正裕尚 (東京経大・経) 代表・安田 敦 (東大・地震研), 3 名, 2400 千円, 2005.4–2007.3.
島弧における大規模珪長質火成活動の継続時間と活動変遷: 西南日本白亜紀花崗岩類の例, 分担, 中島 隆 (代表: 産総研), 2 名, 343 千円, 2006.4–2007.3.
西南日本-韓半島の中生代-新生代花崗岩類の成因と大陸成長機構の解明, 分担, 岩森 光 (代表: 東大・院理), 2 名, 257 千円, 2006.4–2007.3.
付加作用の特定数の解明と沈み込み帯の物質フラックス, 分担, 木村 学 (東大・院理), 2 名, 257 千円, 2006.4–2007.3.
超背弧地域における玄武岩質マグマの成因解明: 第 4 のマグマ生成場として, 代表, 中井俊一・本多 了・三部 賢治・飯高 隆 (地震研), 5 名, 2800 千円, 2006.4–2007.3.
西南日本-韓半島の白亜紀-第三紀花崗岩類の成因と大陸成長機構, 分担, 岩森 光 (代表: 東大・院理), 2 名, 千円, 2006.4–2009.3.
付加体形成のダイナミクスと沈み込み帯地震発生断層解剖, 分担, 木村 学 (代表: 東大・院理) ほか, 名, 千円, 2006.4–2009.3.
インド洋中央海嶺口ドリゲスセグメント地球科学総合探査 (JAMSTEC 白鳳丸 KH06-4 次航海), 分担, 玉木賢策 (代表: 東大・工)・浦 環 (東大・工)・蒲生俊敬 (東大・海洋研) ほか, 約 40 名, 千円, The Great Dodo Cruise On-board Cruise Report, 2006.12–2007.1.
日本列島付加体年代, 特に白亜系-第三系付加体の U-Pb 年代測定による全面的再検討, 分担, 木村 学 (東大・理), 3 名, 357 千円, 2007.4–2008.3.
台湾の基盤岩中の碎屑性ジルコンの U-Pb 年代測定, 分担, 鳥海光弘 (東大・理), 3 名, 264 千円, 2007.4–2008.3.
島弧型変動帯における花崗岩マグマティズムと広域変成作用の進行過程解析, 分担, 中島 隆 (産総研), 2 名, 248 千円, 2007.4–2008.3.
レリックジルコンの微量元素組成にもとづく蛇紋岩メラランジュの構造岩塊の源岩推定, 分担, 森 康 (北九州市立自然史・歴史博), 2 名, 165 千円, 2007.4–2008.3.
NECESSArray 計画: 中国大陸からみる地球内部ダイナミクス, 分担, 川勝 均 (代表: 東大・地震研)・田中 聰 (IFREE, JAMSTEC)・飯高 隆 (東大・地震研) 他, 10 名, 9760 千円, 2007.4–2011.3.
付加体成長速度の推定とジルコン年代測定の若い年代への挑戦, 分担, 木下正高 (JAMSTEC), 4 名, 680 千円, 2008.4–2009.3.
南米アンデス弧 Southern Volcanic Zone 周辺の中新世貫入岩の地球化学的研究, 分担, 新正裕尚 (東京経済大), 2 名, 360 千円, 2008.4–2009.3.

- LA-ICP-MS を用いた火成活動史の精密解析：オマーンオフィオライトを例に，分担，宮下純夫（新潟大），3名，174千円，2008.4-2009.3.
 精密年大測定におけるマグマティックパルスの継続時間の研究，分担，中島 隆（産総研），2名，288千円，2008.4-2009.3.

地球計測部門

大久保 修平

- (a) IUGG General Assembly, Perugia, Italy, 10 Jul, 2007.
 (b) 国際測地学協会 (IAG) Sub-commission 2.1, Chair, 2003.9-2007.7.
 日本学術会議 連携会員, 2006.8-2012.9.
 日本学術会議 IUGG 小委員会, 幹事, 2006.8-2007.3.
 日本学術会議 IAG 小委員会, 委員長, 2006.10-2011.9.
 IUGG General Assembly, Convenor, 2007.1-2007.7.
 日本学術会議 IUGG 分科会, 幹事, 2007.3-2011.9.
 日本測地学会, 会長, 2007.4-2009.3.

山下 輝夫

- (a) American Geophysical Union Fall Meeting, San Francisco, USA, 10 Dec, 2007.
 American Geophysical Union Fall Meeting, San Francisco, USA, 18 Dec, 2008.
 (b) 日本地震学会, 代議員, 2001.1-2007.5.
 Acta Geophysica, member of editorial advisory board, 2006.1-2009.12.
 日本地震学会, 代議員, 2007.5-2009.5.
 (e) リソスフェアにおける短波長不均質構造の解明 - 地球内部構造と地震発生特性の解, 分担, 西上欽也他, 30名, 千円, 2007.4-2008.3.
 リソスフェアの短波長不均質性の時空間変化に関する研究の高度化, 分担, 吉本和生他, 30名, 655千円, リソスフェアの短波長不均質性の時空間変化に関する研究の高度化, 2008.4-2009.3.
 地殻活動予測シミュレーション, 代表, 加藤尚之、市村強他, 9名, 300千円, 2008.4-2009.3.

新谷 昌人

- (a) Workshop of geodynamics inferred from the observations, Beijing, China, 20 Jun, 2007.
 International Symposium on Underwater Technology 2007, Tokyo, Japan, 19 Apr, 2007.
 7th General Assembly of Asian Seismological Commission, Tsukuba, Japan, 26 Nov, 2008.
 (e) 光を用いた地震等の計測とそのネットワークに関する研究, 代表, 中沢正隆・廣岡俊彦 (東北大・電通研)、三ヶ田均 (京大・工)、浅川賢一・高橋幸男 (JAMSTEC)、国松直・村上裕 (産総研)、浅沼宏 (東北大・環境)、坂田正治 (元防災科研)、本多克也 (三菱総研), 11名, 612千円, 2007.4-2009.3.
 地下深部における高精度観測・精密計測, 代表, 勝間田明男 (気象研)・大久保慎人 (東濃地震科学研)・大橋正健 (宇宙線研)・早河秀章 (極地研)・加納靖之 (京大防災研)・寺田聡一 (産総研)・高橋弘毅 (長岡技科大), 約20名, 2,211千円, 2008.4-2009.3.

孫 文科

- (a) International Union of Geodesy and Geophysics, General Assembly, Perugia, Italy, 3 Jul, 2007.
 Workshop of geodynamics inferred from the observations, Beijing, China, 22 Jul, 2007.
 Workshop of crustal movement and tectonics in East Asia, Wuhan, China, 26 Jul, 2007.
 The IAG International Symposium on Gravity, Geoid & Earth Observation 2008, Crete, Greece, 24 Jun, 2008.
 Western Pacific Geophysics Meeting (WPGM), Cairns, Australia, 29 Jul, 2008.
 Western Pacific Geophysics Meeting (WPGM), Cairns, Australia, 30 Jul, 2008.
 (b) Journal of Geodesy and Geodynamics, Editor, 2001.12-2009.12.
 IAG ICCT Work Group, member, 2003.4-2007.
 IAG SSG, member, 2003.4-2007.
 日本測地学会 34・35期評議員, 委員, 2007.4-2009.3.
 IAG Study Group IC-SG7, member, 2007.10-2011.9.
 (e) 中国雲南省紅河活断層帯において日中共同重力観測, 代表, 李輝 (中国地震局地震研究所), 12名, 8000千円, 2002.4-2008.3.
 米国アラスカ州南部における後氷期地殻隆起の総合測地観測と粘弾性構造の推定, 分担, 三浦 哲 (東北大学・大学院理学研究科), 10名, 19110千円, 2005.4-2009.12.
 2008年中国四川省の巨大地震と地震災害に関する統合的調査研究, 分担, 小長井一男 (東京大学生産技術研究所), 9名, 12920千円, 2008.4-2009.3.

宮武 隆

- (a) International workshop of the earth as a dynamical system, 北京, 中華人民共和国, 30 Jun, 2008.

The 7th General Assembly of Asian Seismological Commission, つくば市, 日本, 26 Oct, 2008.

(b) 日本地震学会, 代議員, 2007.5-2009.5.

堀 輝人

(e) 光を用いた地震等の計測とそのネットワーキングに関する研究, 分担, 新谷昌人(地震研)・中沢正隆・廣岡俊彦(東北大・電通研)・三ヶ田均(京大・工)・浅川賢一・高橋幸男(JAMSTEC)・国松直・村上裕(産総研)・浅沼宏(東北大・環境)・本多克也(三菱総研)ほか, 約15名, 612千円, 2007.4-2009.3.

地下深部における高精度観測・精密計測, 分担, 新谷昌人(地震研)・勝間田明男(気象研)・大久保慎人(東濃地震科学研)・大橋正健(宇宙線研)・早河秀章(極地研)・加納靖之(京大防災研)・寺田聡一(産総研)・高橋弘毅(長岡技科大)ほか, 約20名, 2,211千円, 2008.4-2009.3.

田中 愛幸

(a) Tanaka, Y., V. Llemann, K. Fleming and Z. Martinec, Spectral finite element approach to postseismic deformation in aviscoelastic self-gravitating spherical Earth, *Geophys. J. Int.*, doi: 10.1111/j.1365-246X.2008.04015.x, 2008.

高森 昭光

(a) Rotational Seismology and Engineering Applications, Menlo Park, California, U.S.A., 18 Sep, 2007.

Seismogenic Zone Observatory/Ocean Borehole Observatory Science, Tokyo, Japan, 29 Nov, 2007.

Asian Seismological Commission, Tsukuba, Japan, 26 Nov, 2008.

(e) 垂直型レーザー干渉計の基礎研究, 分担, 三代木伸二・内山隆・大橋正健・黒田和明(宇宙線研), 新谷昌人(地震研), 寺田聡一(産総研), 辰巳大輔(国立天文台), 8名, 36,400千円, 2004.4-2007.3.

能動防振用小型高感度加速度計の研究開発, 代表, 高橋竜太郎(自然科学研究機構国立天文台), 2名, 1500千円, 2006.4-2007.3.

波多野 恭弘

(a) Science of Friction, Irigoien, Japan, 12 Sep, 2007.

Unifying Concepts in Glass Transition, Fukuoka, Japan, 24 Nov, 2007.

STATPHYS 23, Genova, Italy, 12 Jul, 2007.

Dynamical heterogeneities in glasses, colloids and granular media, Leiden, Netherlands, 3 Sep, 2008.

Frontiers of Glassy Physics, Kyoto, Japan, 19 Nov, 2008.

Unifying Concepts in Glass Physics IV, Kyoto, Japan, 26 Nov, 2008.

AGU Fall meeting, San Francisco, USA, 18 Dec, 2008.

地震火山災害部門

嶺 一 起

(a) 2nd International Workshop on Long-Period Ground Motion Simulation and Velocity Structures, Tokyo, Japan, 9 Nov, 2007.

AGU Fall Meeting, San Francisco, USA, 14 Dec, 2007.

日中四川大地震災害復旧技術交流検討会, 成都, 中国, 31 May, 2008.

2008 Association of Pacific Rim Universities Symposium, University of California, Davis, USA, 22 Aug, 2008.

14th World Conference on Earthquake Engineering, Beijing, China, 16 Oct, 2008.

AGU Fall Meeting, San Francisco, USA, 17 Dec, 2008.

(b) 日本地震学会強震動委員会, 委員, 1996.4-2010.4.

(社)日本地震学会, 代議員, 2004.5-2010.4.

土木学会原子力土木委員会, 活断層評価部会委員, 2005.10-2007.3.

Journal of Seismology, Associate Editor, 2005.11-2010.12.

(e) Seismic Kanto プロジェクト, 代表, 鷹野澄・山中佳子・翠川三郎(東工大)・他, 約20名, 2000.1-2010.3.

大都市圏大震災軽減化特別プロジェクト「I. 地震動(強い揺れ)の予測」, 分担, 京大防災研・防災科技研, 約50名, 2002.4-2007.3.

糸魚川-静岡構造線断層帯における重点的調査観測「6. 強震動評価高精度化のための強震観測・地下構造調査」, 代表, 三宅弘恵・石瀬素子・泉谷恭男(信州大)・山中浩明(東工大), 5名, 2005.7-2010.3.

宮城県沖地震における重点的調査観測「3. 強震動評価高精度化のための強震観測・地下構造調査」, 代表, 三宅弘恵・木村武志・岡田知巳(東北大)・海野徳仁(東北大), 5名, 2005.11-2010.3.

科研費基盤研究(C)「環太平洋の長周期地震動とその都市災害軽減のための国際共同研究の企画調査」, 代表, 三宅弘恵・古村孝志・翠川三郎(東工大)・久田嘉章(工学院大)・工藤一嘉(日大)・藤原広行(防災科技研)・佐藤俊明(大崎総研), 8名, 2006.4-2007.3.

科学技術振興調整費「統合化地下構造データベースの構築: 3-2 深部地盤構造データベースの利活用手法」, 代表, 三宅弘恵・引間和人, 3名, 2006.7-2011.3.

科研費基盤研究(A)「長周期地震動とその都市災害軽減に関する総合研究」, 代表, 堀宗朗・古村孝志・三宅弘

恵・入倉孝次郎(愛工大)・翠川三郎(東工大)・笹谷努(北大)・岩田知孝・釜江克宏(京大)・川瀬博・竹中博士(九大)・福和伸夫(名大)・久田嘉章(工学院大)・座間新作(消防研)・藤原広行・青井真(防災科技研)・東貞成(電中研)・関口春子(産総研)・工藤一嘉(日大), 19名, 2007.4-2011.3.

首都直下地震防災・減災特別プロジェクト「I-4. 震源断層モデル等の構築」, 代表, 三宅弘恵・引間和人・古村孝志・岩田知孝(京大)・藤原広行(防災科研)・翠川三郎(東工大)・竹中博士(九大)・笹谷努(北大)・井出哲(東大)・谷本俊郎(UCSB)・他, 約15名, 2007.7-2012.3.

壁谷澤 寿海

- (a) 第7回日中建築構造技術交流会, 東京, 日本・中国, 18 Apr, 2007.
2007 Structures Congress, SEI, ASCE, Long Beach, USA, 18 May, 2007.
8th Pacific Conference on Earthquake Engineering, Singapore, Singapore, 6 Dec, 2007.
China-Japan Symposium on Seismic Disaster Prevention and Mitigation, Chendu, China, 11 Oct, 2008.
The 14th World Conference on Earthquake Engineering, Beijing, China, 16 Oct, 2008.
- (b) 日本コンクリート工学協会 ISO/TC71 対応国内委員会, 委員, 1995.4-2008.3.
日本建築学会構造委員会鉄筋コンクリート構造運営委員会, 幹事, 2002.4-2009.3.
大都市大震災特別軽減化研究プロジェクト RC 建物委員会, 委員長, 2002.4-2007.3.
防災科学技術研究所大都市大災害軽減化特別プロジェクト耐震性向上 RC 全体委員会, 主査, 2002.4-2007.3.
震災予防, 編集委員, 2002.4-2008.3.
防災科学技術研究所大都市大災害軽減化特別プロジェクト耐震性向上 RC 全体委員会, 主査, 2002.8-2007.3.
日本建築学会構造委員会鉄筋コンクリート構造運営委員会 RC 基礎部材の構造性能評価小委員会, 委員, 2003.4-2007.3.
日本地震工学会地震災害対応委員会, 主査, 2005.10-2008.3.
日本建築学会構造委員会振動運営委員会地震荷重小委員会, 委員, 2006.4-2008.3.
日本建築学会構造委員会耐震設計小委員会, 委員, 2006.4-2008.3.
日本建築学会構造委員会鉄筋コンクリート構造運営委員会鉄筋コンクリート構造計算規準改定小委員会, 委員, 2006.4-2009.3.
日本建築学会構造委員会鉄筋コンクリート構造運営委員会鉄筋コンクリート構造計算規準改定小委員会耐震壁 WG, 主査, 2006.4-2009.3.
日本地震工学会, 理事, 2006.6-2008.5.
日本建築学会構造委員会鉄筋コンクリート構造運営委員会応答スペクトルにもとづく耐震設計小委員会小委員会, 主査, 2007.4-2011.3.
日本地震工学会大会-2007 実行委員会, 委員長, 2007.4-2008.3.
- (c) 日経 BP 技術賞建設部門『E-ディフェンスの建設技術と一連の実大振動破壊実験(大大特プロジェクト)』, 4月4日, 2008.4.4.
- (e) 大都市大震災軽減化特別プロジェクト 震動台活用による構造物の耐震性向上研究, 代表, 壁谷澤寿海(地震研), 倉本洋(豊橋技科大), 松森泰造, 陳少華(防災科研), 勝俣英雄・白井和貴(大林組), 田中仁史・河野進(京大), 福山洋・斉藤大樹(建研), 五十嵐克哉・鈴木紀雄・田上淳(鹿島) 他, 20名, 5,500,000千円, 大都市大震災軽減化特別プロジェクト 震動台活用による構造物の耐震性向上研究, 2002.4-2007.3.
地盤基礎構造物系の地震時非線形挙動に関する実証的研究, 代表, 工藤一嘉, 真田靖士, 3名, 2900千円, 地盤基礎構造物系の地震時非線形挙動に関する実証的研究, 2004.4-2007.3.
地盤基礎構造物系の地震時非線形挙動に関する実証的研究, 代表, 工藤一嘉, 真田靖士(地震研), 3名, 9,900,000千円, 地盤基礎構造物系の地震時非線形挙動に関する実証的研究, 2004.4-2007.3.
RC 耐震壁および CB 壁の補強方法の開発に関する研究, 代表, 真田靖士(地震研), 五十嵐俊一(構造品質保証研究所), 10名, 4,800,000千円, RC 耐震壁および CB 壁の補強方法の開発に関する研究, 2004.4-2007.3.
平成 20 年度建築基準整備促進補助金事業受託 7 鉄筋コンクリート造の変断面部材の構造特性評価に関する実験「袖壁を有する柱および腰壁・垂壁を有する梁の力学特性に関する調査」, 代表, 田才晃(横浜国立大学大学院工学研究院), 楠浩一(横浜国立大学大学院工学研究院), 磯雅人(福井大学大学院工学研究科), 4名, 19990千円, 2008.9-2009.3.
耐震診断法の高度化に関する検討, 分担, 関松太郎(日本建築防災協会, 代表), 中埜良昭(東京大学生産技術研究所), 山田哲(東京工業大学建築物理センター), 腰原幹雄(東京大学生産技術研究所), 20名, 20000千円, 2008.9-2011.3.

古村 孝志

- (a) IUGG2007 General Assembly, Perugia, Italy, 7 July, 2007.
International Workshop for Large-Scale Coupled Simulations: Computation and Physics, Tokyo, Japan, 9 Apr, 2007.
2nd International Workshop on Long-Period Ground Motion Simulation and Velocity Structure, Tokyo, Japan, 8 Nov, 2007.
5th APEC Cooperation Earthquake Simulation Workshop, Carins, Australia, 14 May, 2008.
APRUResearch Symposium 2008 Earthquake Hazards around the Pacific Rim, Davis, USA, 21 Aug, 2008.
International Symposium on Structures, Osaka, JApap, 11 Oct, 2008.
Second international symposium for "Integrated Predictive Simulation System for Earthquake and Tsunami

Disaster”, Tokyo, Japan, 21 Oct, 2008.

2008 ASC meeting, Tsukuba, Japan, 26 Nov, 2008.

- (b) 日本地球惑星科学連合プログラム委員会, 委員長, 2006.4–2007.3.
(社) 日本地震学会, 理事, 2006.4–2008.3.
(社) 日本地震学会強震動委員会, 幹事, 2006.4–2008.3.
(社) 日本地震学会広報委員会, 委員, 2006.4–2008.3.
日本学術会議地球惑星科学委員会国際対応分科会 IASPEI 小委員会, 委員, 2006.9–2008.9.
(社) 日本地震学会 IASPEI 委員会, 幹事, 2006.10–2008.3.
日本地球惑星科学連合プログラム委員会, 副委員長, 2007.4–2008.3.
(社) 日本地震学会 IASPEI 委員会, 幹事, 2008.3–2009.3.
(社) 日本地震学会, 常務理事, 2008.3–2009.4.
日本地球惑星科学連合プログラム委員会, 副委員長, 2008.4–2009.3.
(社) 日本地震学会強震動委員会, 幹事, 2008.4–2009.3.
(社) 日本地震学会 ASC 実行委員会, 委員, 2008.4–2009.3.
一般社団法人日本地球惑星科学連合, 理事, 2008.12–2009.5.

都司 嘉宣

- (b) 歴史地震研究会, 会長, 2000.4–2008.3.
歴史地震研究会, 会長, 2006.4–2007.10.
- (e) 平成 17 年度科学研究費(基盤(B)(1))「歴史地震の詳細震度分布図の作成と断層パラメータの推定に関する研究, 代表, 瀧澤一樹(東大地震研), 佐藤孝之(東大史料編纂所), 中西一郎(京都大学理), 草野頭之(大谷大学文学部日本史), 5 人名, 7,000 千円, 2005.4–2007.3.

飯田昌弘

三宅 弘恵

- (a) AGU Fall Meeting, San Francisco, USA, 10-14 Dec, 2007.
14th World Conference on Earthquake Engineering, Beijing, China, 12-17 Oct, 2008.
- (b) 日本地震工学会誌編集委員会, 委員, 2006.1–2009.3.
日本地震学会大会・企画委員会, 委員, 2006.4–2008.3.
日本地震学会, 代議員, 2006.5–2010.5.
日本地震工学会大会実行委員会, 委員, 2007.6–2008.5.
日本地震学会 ASC&SSJ2008 プログラム委員会, 委員, 2007.12–2008.12.
日本地震学会夏の学校委員会, 委員, 2008.6–2009.3.
- (c) 14WCEE Outstanding Paper Award, 10 月 17 日, 2008.10.17.
- (e) 文部科学省受託研究「大都市大震災軽減化特別プロジェクト . 地震動(強い揺れ)の予測「大都市圏地殻構造調査研究」, 分担, 平田直(代表)ほか, 名, 千円, 2004.4–2007.3.
文部科学省受託研究「糸魚川 - 静岡構造線断層帯における重点的調査観測」, 分担, 岩崎貴哉(代表)ほか, 名, 千円, 2005.7–2010.3.
平成 17 年度原子力安全基盤調査研究「長大断層で発生する地震の動力学的強震動予測に関する研究」, 分担, 入倉孝次郎(代表: 地域地盤環境研究所)ほか, 15 名, 19,000 千円, 2005.9–2007.2.
平成 18 年度科学技術振興調整費(重点課題解決型研究)「統合化地下構造データベースの構築」, 分担, 藤原広行(代表: 防災科研)ほか, 名, 千円, 2006.4–2011.3.
平成 18 年度科学研究費(基盤(A)(海外))「南アフリカ大深度鉱山における超高周波までの地震学 1 cm から 200 m まで」, 分担, 中谷正生(代表)ほか, 15 名, 33,500 千円, 2006.4–2009.3.
平成 18 年度科学研究費(基盤(C)(企画))「環太平洋の長周期地震動とその都市災害軽減のための国際共同研究の企画調査」, 分担, 瀧澤一樹(代表)ほか, 9 名, 3,200 千円, 2006.4–2007.3.
文部科学省受託研究「宮城県沖地震における重点的調査観測」, 分担, 松澤暢(代表: 東北大)ほか, 名, 千円, 2007.4–2010.3.
平成 19 年度科学研究費(基盤(A))「長周期地震動とその都市災害軽減に関する総合研究」, 分担, 瀧澤一樹(代表)ほか, 18 名, 35,400 千円, 2007.4–2011.3.
文部科学省受託研究「首都直下地震防災・減災特別プロジェクト」, 分担, 平田直(代表)ほか, 名, 千円, 2007.6–2012.3.
平成 19 年度原子力安全基盤調査研究「国内外の長大断層地震の動力学的強震動予測に関する研究」, 分担, 入倉孝次郎(代表: 地域地盤環境研究所)ほか, 16 名, 7,497 千円, 2007.6–2008.2.
日伊科学技術協力プログラム「地震災害軽減のための長周期地震動に関する研究」, 代表, 三宅弘恵・瀧澤一樹・Alessandro Vuan (伊側代表: OGS)・Peter Klin (OGS)・Angela Sara ò (OGS)・Enrico Priolo (OGS), 6 名, 千円, 2008.1–2009.12.

金 裕錫

- (b) 日本建築学会図書委員会文献抄録小委員会, 委員, 2006.5–.
コンクリート工学年次論文査読委員会, 委員, 2008.10–2010.7.
日本建築学会応答スペクトルによる耐震設計小委員会壁部材性能評価WG, 委員, 2008.12–2010.12.

地震予知研究推進センター

加藤 照之

- (a) IUGG 学術総会, Perugia, Italy, 2-14 Jul, 2007.
The 3rd APRU/AEARU Research Symposium on Earthquake and Tsunami, Jakarta, Indonesia, 21 Jun, 2007.
International Symposium on the Restoration Program from Giant Earthquakes and Tsunamis, Phuket, Thailand, 22 Jan, 2008.
Follow-up Workshop for the Asian Science and Technology Forum for Disaster Prevention, Jakarta, Indonesia, 10 Apr, 2008.
AOGS2008, Busan, Korea, 20 Jun, 2008.
5th International Workshop on Remote Sensing for Disaster Management Applications, Pavia, Italy, 12 Sep, 2008.
International Symposium on GPS/GNSS 2008, Tokyo, Japan, 12 Nov, 2008.
AGU 2008 Fall Meeting, San Francisco, USA, 18 Dec, 2008.
- (b) 日本測地学会誌, 編集委員, 2005.4-2007.3.
日本測地学会, 合同大会プログラム委員, 2005.4-2007.3.
日本地球惑星科学連合, 国際委員会副委員長, 2005.10-2007.5.
日本学術会議地球惑星科学委員会 IAG 小委員会, 委員, 2006.10-。
日本測地学会, 評議員, 2007.4-2009.3.
日本地球惑星科学連合国際委員会, 委員長, 2007.5-。
日本学術会議(第20期)地球惑星科学委員会国際対応分科会, 委員(幹事), 2007.11-2008.10。
日本学術会議(第21期)地球惑星科学委員会国際対応分科会, 委員, 2008.10-。
- (e) GPS を用いた東アジアの地殻変動の研究, 代表, Pil-Ho Park (韓国国立天文台) Xiong Xiong (中国科学院武漢測地地球物理学研究所) Xiong Xiong (中国科学院武漢測地地球物理学研究所) Xiong Xiong (中国科学院武漢測地地球物理学研究所) Xu Houze (中国科学院武漢測地地球物理学研究所) Xiong Xiong (中国科学院武漢測地地球物理学研究所), 7名, 7,500(申請中)千円, 2005.2-2008.1。
文部科学省科学技術振興調整費「スマトラ型巨大地震・津波被害の軽減策」, 代表, 佐竹健治(産総研)・山岡耕春(東大震)・今村文彦(東北大・工)・家村浩和(京大・工)ほか, 約20名, 150,000千円, 2005.4-2008.3。
平成17-20年度科学研究費補助金「GPS ブイを用いた津波・波浪防災システムの総合的研究」, 代表, 越村俊一(東北大・工)・永井紀彦(港空研)・清水勝義(港空研), 6名, 10700千円, 2006.4-2007.3。
文部科学省科学技術振興調整費「スマトラ型巨大地震・津波被害の軽減策」, 代表, 佐竹健治(産総研)・山岡耕春(東大震)・今村文彦(東北大・工)・家村浩和(京大・工)ほか, 約20名, 150,000千円, 2006.4-2007.3。
GPS を用いた東アジアの地殻変動の研究, 代表, Pil-Ho Park (韓国国立天文台) Xiong Xiong (中国科学院武漢測地地球物理学研究所) Xiong Xiong (中国科学院武漢測地地球物理学研究所) Xiong Xiong (中国科学院武漢測地地球物理学研究所) Xu Houze (中国科学院武漢測地地球物理学研究所) Xiong Xiong (中国科学院武漢測地地球物理学研究所), 7名, 5,925千円, 2006.4-2007.3。
平成17-20年度科学研究費補助金「GPS ブイを用いた津波・波浪防災システムの総合的研究」, 代表, 寺田幸博(高知工専)・越村俊一(東北大・工)・永井紀彦(港空研)・清水勝義(港空研), 6名, 4,800千円, 2007.4-2008.3。
文部科学省科学技術振興調整費「スマトラ型巨大地震・津波被害の軽減策」, 代表, 佐竹健治(産総研)・山岡耕春(東大震)・今村文彦(東北大・工)・家村浩和(京大・工)ほか, 約20名, 150,000千円, 2007.4-2008.3。
GPS を用いた東アジアの地殻変動の研究, 代表, Pil-Ho Park (韓国国立天文台) Xiong Xiong (中国科学院武漢測地地球物理学研究所) Xiong Xiong (中国科学院武漢測地地球物理学研究所) Xiong Xiong (中国科学院武漢測地地球物理学研究所) Xu Houze (中国科学院武漢測地地球物理学研究所) Xiong Xiong (中国科学院武漢測地地球物理学研究所), 7名, 7,012千円, 2007.4-2008.1。
ジャワ島西部並びにアチェにおけるGPSを用いた地殻変動の研究, 代表, 木股文昭(名大環境), 伊藤武男(名大環境), H. Z. Abidin (ITB), 5名, 1,975千円, 2007.4-2008.3。
GPS ブイを用いた津波・波浪防災システムの総合的研究, 代表, 寺田幸博(高知高専), 6名, 13,000千円, 2008.4-2009.3。
ジャワ島西部並びにアチェにおけるGPSを用いた地殻変動の研究, 代表, 木股文昭(名大環境), 伊藤武男(名大環境), H. Z. Abidin (ITB), 5名, 1,975千円, 2008.4-2009.3。
インドネシアにおける地震火山の総合防災策, 分担, 佐竹健治(代表)他, 約120名, 約130,000千円, 2008.10-2009.3。

佐藤 比呂志

- (a) European Geoscience Union General Assembly 2007, Viena, Austria, 17 Apr, 2007.
IGCP-502 International Workshop on Relationship between Kuroko deposits and Evolution of Volcanic Arcs, Japan, Tokyo, Japan, 27 Oct, 2007.
International Workshop for Seismic Investigation along Arc-Backarc basin-Continent Transect, Tokyo, Japan, 14

Jun, 2007.

IUGG 2007, Perugia, Italy, 9 Jul, 2007.

4th International Congress on Pacific Neogene Stratigraphy, Tsukuba, Japan, 3 Oct, 2007.

2007 Korea-Japan Joint Symposium on Ocean Drilling, Jeju, Korea, 22 Nov, 2007.

The 13th International Symposium on Deep Seismic Profiling of the continents and Their Margins, Saariselkä, Finland, 10 Jun, 2008.

33th International Geological Congress, Oslo, Norway, 7 Aug, 2008.

7th General Assembly of Asian Seismological Commission, Tsukuba, Japan, 24 Nov, 2008.

International Symposium on Earthquakes and Crustal structures, Seoul, Korea, 11 Dec, 2008.

(b) 日本地質学会, 代議員, 2008.1–2010.1.

日本地震学会, 代議員, 2006.5–2010.5.

(e) 平成 19 年 (2007 年) 能登半島地震に関する緊急調査研究 (2) 陸域震源域の構造探査, 代表, 伊藤谷生 (千葉大)・宮内崇裕 (千葉大), 4 名, 20,800 千円, 平成 19 年 (2007 年) 能登半島地震に関する緊急調査研究, 2007.7–2008.3.

科学技術振興調整費 平成 19 年 (2007 年) 新潟県中越沖地震に関する緊急調査研究 2 . 海域及び陸域の構造調査 (2) 海陸統合地殻構造探査, 代表, 金沢敏彦・岩崎貴哉・篠原雅尚・加藤愛太郎・蔵下英司・望月公廣・山田知朗 (東京大学地震研究所), 7 名, 21450 千円, 2007.8–2008.3.

平田 直

(a) AGU, サンフランシスコ, 米国, 13 Dec, 2007.

CSEP Global Collaboration & Testing Meeting, SCEC Headquarters, Los Angeles, CA., USA, 21 Apr, 2008.

plenary session Pushing the Limits: Integration of Active and Passive Seismic Imaging; Integration of Seismology and Mineral Physics 2008 IRIS Workshop, Stevenson, WA, USA, 4 Jun, 2008.

China-Japan Symposium on Seismic Disaster Prevention and Mitigation, Chengdu(成都), 中国, 10 Oct, 2008.

EGYPT-JAPAN GEOSCIENCES FORUM, Helwan, Egypt, 16 Dec, 2008.

(e) 産学連携経費「新世紀重点研究創生プラン (RR2002)」大規模大震災軽減化特別プロジェクト: 大都市圏地殻構造調査研究, 代表, 笠原啓司 (防災科研)・梅田康弘 (防災研)・佐藤比呂志 (地震研), 20 名, 1,375 百万円, 2002.9–.

吉田 真吾

(a) Bilateral Seminar Italy-Japan on Electromagnetics in Seismic and Volcanic Areas, Chiba, Japan, 25 Jul, 2007.

(b) 社団法人日本地震学会, 地震予知検討委員会, 委員, 2003.4–2009.3.

日本地球惑星科学連合, 企画委員会, 副委員長, 2005.4–2007.3.

日本地球惑星科学連合, 企画委員会, 委員長, 2007.4–2009.3.

日本地震学会, 代議員, 2007.4–2009.3.

日本地震学会 災害調査委員会, 委員, 2007.4–2009.3.

防災研究フォーラム, 幹事, 2007.4–2009.3.

自然災害研究協議会, 委員, 2007.4–2009.3.

(e) 研究集会「地震発生の素過程」, 代表, 吉岡直人 他, 20 名, 万円, 2003.4–.

笠原 敬司

(a) AGU, San Francisco, USA, 12 Dec, 2007.

飯高 隆

(a) International Union of Geodesy and Geophysics, Perugia, Italy, Italy, 10 Jul, 2007.

American Geophysical Union, 2000 Fall meeting, San Francisco, USA, 12 Dec, 2007.

13th International Symposium on Deep Structure of the Continents and their Margins, Saariselkä, Finland, 10 Jun, 2008.

13th International Symposium on Deep Structure of the Continents and their Margins, Saariselkä, Finland, 12 Jun, 2008.

(b) 社団法人 日本地震学会, 代議員, 2005.4–2007.3.

Earth, Planets and Space, Editor, 2007.4–2011.3.

社団法人 日本地震学会, 代議員, 2007.4–2009.3.

上嶋 誠

(a) the ISSI-Europlanet workshop on "Planetary Atmospheric Electricity", Bern, Switzerland, 23 Jul, 2007.

AFU Fall Meeting, San Francisco, USA, 12 Dec, 2007.

19th workshop on Electromagnetic Induction in the Earth, Beijing, China, 24 Oct, 2008.

(b) Earth Planet Space, Editor, 2005.4–2009.3.

(e) NTT 回線を用いた地電位差変化観測による地震予知・火山噴火予知の基礎研究, 代表, NTT アクセス網研究所, 各大学研究者, 20 名, 千円, 1994.4–2009.3.

歪集中帯における電磁気構造探査, 代表, 大志万直人・吉村令慧 (京大) ほか, 約 30 名, 千円, 2004.4–2009.3.

糸魚川静岡構造線における電気伝導度構造の解明, 分担, 小川康雄 (東工大)・大志万直人・吉村令慧 (京大) ほか, 約 10 名, 千円, 2005.4–2010.3.

大陸縁辺の広域深部電気伝導度構造の解明, 代表, 市來雅啓・長尾大道 (JAMSTEC)・山口覚 (神戸大)・藤浩明 (富山大)・超國澤・湯吉 (中国国家地震局), 6 名, 6,800 千円, 2006.4-2009.3.
比抵抗 - 地震波速度同時解釈による物質インバージョン手法の開発, 代表, 武井康子・小河勉・加藤愛太郎 (東大震研), 4 名, 2,100 千円, 2007.4-2010.3.
ひずみ集中帯の重点的調査観測・研究, 分担, 森田裕一・小河勉・市原寛・渡邊篤志 (東大震研)・茂木透・山谷祐介 (北大理)・西谷忠師・坂中伸也 (秋田大資源工学)・三品正明 (東北大理)・小川康雄 (東工大火山流体研究セ)・大志万直人・吉村令慧 (京大防災研), 13 名, 8000 千円, 2008.4-2012.3.

加藤 尚之

- (a) American Geophysical Union, Fall Meeting, San Francisco, USA, 17 Dec, 2008.
- (b) 日本地震学会, 代議員, 2006.4-2008.3.
日本地震学会 学会情報誌編集委員会, 委員, 2006.4-2009.3.
日本地震学会, 代議員, 2008.4-2010.3.
- (e) 平成 17 年度科学研究費 (基盤 (C)) 「プレート境界の摩擦パラメータ推定に関する研究 - 数値シミュレーションと観測データの融合による -」, 代表, 宮崎真一 (東大・地震研), 松澤暢 (東北大・理), 3 名, 3,100 千円, 2005.4-2007.3.
東海・東南海・南海地震の連動性評価のための調査観測・研究, 分担, 金田義行 (海洋研究開発機構) 他, 11 名, 20,000 千円, 2008.6-2013.3.

勝俣 啓

中谷 正生

- (a) European Geosciences Union, Vienna, Austria, 14 Apr, 2007.
IUGG, Perugia, Italy, 11 Jul, 2007.
Seismic Rock Mass Response To Mining, Stellenbosch, South Africa, 9 Apr, 2008.
Seismic Rock Mass Response To Mining, Stellenbosch, South Africa, 9 Apr, 2008.
Asian Seismological Commission, Tsukuba, Japan, 26 Nov, 2008.
European Geosciences Union, Vienna, Austria, 14 Apr, 2008.
European Geosciences Union, Vienna, Austria, 14 Apr, 2008.
European Geosciences Union, Vienna, Austria, 15 Apr, 2008.
European Geosciences Union, Vienna, Austria, 16 Apr, 2008.
Seismological Society of America, Santa Fe, USA, 17 Apr, 2008.
Seismological Society of America, Santa Fe, USA, 17 Apr, 2008.
Seismological Society of America, Santa Fe, USA, 17 Apr, 2008.
Asian Seismological Commission, Tsukuba, Japan, 26 Nov, 2008.
Asian Seismological Commission, Tsukuba, Japan, 26 Nov, 2008.
Asian Seismological Commission, Tsukuba, Japan, 26 Nov, 2008.
AGU, San Francisco, USA, 17 Dec, 2008.
- (b) 日本地球惑星科学連合大会, レオロジーと物質移動コンペナー, 2006.10-2009.9.
日本学術振興会日英先端科学シンポジウム, プログラム委員, 2007.11-2008.10.
- (c) Best Presentation Award (2nd Place) of Seismic Rock Mass Response To Mining 2008, 4 月 9 日, 2008.4.9.
- (e) 南アフリカ大深度鉱山における超高周波までの地震学 1cm から 200m まで。 , 代表, 吉田真吾 (東大地震研)・三宅弘恵 (東大地震研)・五十嵐俊博 (東大地震研)・加藤愛太郎 (東大地震研)・佐野修 (東大地震研)・飯尾能久 (京大防災研)・川方祐則 (立命館大理工)・小笠原宏 (立命館大理工)・井出哲 (東大理)・佐藤隆司 (産総研地質情報)・矢部康男 (東北大理)・雷興林 (産総研地質情報)・大槻憲四郎 (東北大理)・平松良浩 (金沢大自然科学), 15 名, 41540 千円, 2006.4-2009.3.
地震発生の素過程, 代表, 吉田真吾 (地震研), 渡辺了 (富山大), 堤昭人 (京大) 他, 30 名, 430 千円, 07-A-14.pdf, 2007.4-2008.3.
南アフリカ大深度金鉱山における半制御地震発生実験, 分担, 矢部康男 (東北大学理学研究科) ー代表, 30 名, 372 千円, 07-W-07.pdf, 2007.4-2009.3.
断層破壊面における地震計アレイ観測, 代表, 三宅弘恵 (災害部門) 加藤愛太郎 (推進センター) 佐野修 (観測センター) 所外協力者 井出 哲 (理学系研究科), 6 名, 7,500 千円, 2007.8-2008.3.
南アフリカ大深度金鉱山における半制御地震発生実験, 分担, 矢部康男 (東北大学理学研究科) ー代表, 30 名, 416 千円, 2008.4-2009.3.
地震発生の素過程, 代表, 吉田真吾 (地震研), 渡辺了 (富山大), 堤昭人 (京大) 他, 30 名, 350 千円, 2008.4-2009.3.
南海トラフ付加体掘削試料の摩擦特性に関する実験的研究, 分担, 金川久 (千葉大), 4 名, 900 千円, 2008.4-2009.3.
断層破壊面における地震計アレイ観測, 代表, 三宅弘恵 (災害部門) 加藤愛太郎 (推進センター) 佐野修 (観測センター) 所外協力者 井出哲 (理学系研究科), 15 名, 1, 500 千円, 2008.11-2009.3.

小河 勉

加藤 愛太郎

蔵下 英司

- (a) 2007 AGU Fall Meeting, San Francisco, USA, 13 Dec, 2007.
The 13th International Symposium on Deep Seismic Profiling of the continents and Their Margins, Saariselka, Finland, 9 Jun, 2008.
7th General Assembly of Asian Seismological Commission, Tsukuba, Japan, 25 Nov, 2008.
- (b) (社)日本地震学会夏の学校委員会, 委員, 2008.4-2009.3.

地震地殻変動観測センター

岩崎 貴哉

- (a) XXIV General Assembly of the International Union of Geodesy and Geophysics, Perugia, Italy, 9 Jul, 2007.
AGU 2007 Fall Meeting, San Francisco, USA, 12 Dec, 2007.
13th Int. Symp. Deep Seismic Profiling of the Continents and Their Margins, Saariselka, Finland, 10 Jun, 2008.
AGU 2008 Fall Meeting, San Francisco, USA, 17 Dec, 2008.
- (b) Tectonophysics, Guest Editor (SEISMIX2006 特集号), 2007.1-2008.10.
日本地震学会, 代議員, 2007.4-2009.5.
- (e) 紀伊半島東部における海陸共同構造探査, 代表, 平田直(東大地震研), 飯高隆(東大地震研), 蔵下英司(東大地震研), 加藤愛太郎(東大地震研), 金田義行(海洋技術開発機構), 中山貴史(東北大理), 長谷見晶子(山形大), 馬場久紀(東海大), 山崎文人(名大環), 伊藤潔(京大防災研), 宮町宏樹(鹿児島大理), 30名, 38000千円, 2006.4-2008.3.
総合集中観測による内陸域の歪・応力蓄積・集中過程の解明, 代表, 平田直(東大地震研), 飯高隆(東大地震研), 勝俣啓(北大理), 海野徳仁(東北大理), 岡田智巳(東北大理), 山崎文人(名大環), 鷺谷威(名大環), 飯尾能久(京大防災研), 伊藤潔(京大防災研), 松本聡(九大理), 松島健(九大理), 宮町宏樹(鹿児島大理), 50名, 8,386千円, 2006.4-2007.3.
糸魚川-静岡構造線断層帯における重点的な調査観測, 代表, 池田安隆(東大・理), 平田直・佐藤比呂志・纈纈一起(東大・地震研), 伊藤谷生(千葉大・理)・鈴木安宏(名大・環境), 遠田晋二・桑原保人(産総研), 笠原啓司(防災科研), 30名, 107,346千円, 糸魚川-静岡構造線断層帯における重点的な調査観測, 2006.4-2007.3.
高密度反射法探査データに対する屈折法的処理の高度化に関する研究, 代表, 飯高隆・蔵下英司(東京大学地震研究所) 川中卓・阿部進・東中基倫・斉藤秀雄((株)地球科学総合研究所), 5名, 0千円, 2007.4-2010.3.
総合集中観測による内陸域の歪・応力蓄積・集中過程の解明, 代表, 平田直(東大地震研), 飯高隆(東大地震研), 勝俣啓(北大理), 海野徳仁(東北大理), 岡田智巳(東北大理), 山崎文人(名大環), 鷺谷威(名大環), 飯尾能久(京大防災研), 伊藤潔(京大防災研), 松本聡(九大理), 松島健(九大理), 宮町宏樹(鹿児島大理), 50名, 54,000千円, 2007.4-2008.3.
糸魚川-静岡構造線断層帯における重点的な調査観測, 代表, 池田安隆(東大・理), 平田直・佐藤比呂志・纈纈一起(東大・地震研), 伊藤谷生(千葉大・理)・鈴木安宏(名大・環境), 遠田晋二・桑原保人(産総研), 笠原啓司(防災科研), 30名, 118,934千円, 糸魚川-静岡構造線断層帯における重点的な調査観測, 2007.4-2008.3.
総合集中観測による内陸域の歪・応力蓄積・集中過程の解明, 代表, 平田直(東大地震研), 飯高隆(東大地震研), 勝俣啓(北大理), 海野徳仁(東北大理), 岡田智巳(東北大理), 山崎文人(名大環), 鷺谷威(名大環), 飯尾能久(京大防災研), 伊藤潔(京大防災研), 松本聡(九大理), 松島健(九大理), 宮町宏樹(鹿児島大理), 50名, 8,386千円, 2008.4-2009.3.
糸魚川-静岡構造線断層帯における重点的な調査観測, 代表, 池田安隆(東大・理), 平田直・佐藤比呂志・纈纈一起(東大・地震研), 伊藤谷生(千葉大・理)・鈴木安宏(名大・環境), 遠田晋二・桑原保人(産総研), 笠原啓司(防災科研), 30名, 91,799千円, 糸魚川-静岡構造線断層帯における重点的な調査観測, 2008.4-2009.3.

金沢 敏彦

- (b) 社団法人日本地震学会, 代議員, 2005.5-2007.5.
- (e) 東南海・南海地震に関する調査研究 - 予測精度向上のための観測研究 -, 代表, 金田義行(海洋研究開発機構)・安藤雅孝(名大)・藤本博巳(東北大)他, 約15名, 総額約1,650,000千円, 2003.11-2008.3.
地震研究所特定共同研究 A「海域部総合観測によるプレート境界域におけるひずみ・応力集中機構の解明」, 代表, 北大・東北大・千葉大・九大・鹿児島大, 20名, 千円, 2004.4-2008.3.
科学研究費(特定領域研究(2))「スタグナント・スラブ: マントルダイナミクスの新展開 計画研究ウ: 海底広帯域地震観測でスタグナントスラブを診る」, 代表, 東京大学地震研究所, 海洋研究開発機構, 10名, 総額約407,700千円, 2004.9-2008.3.
日本海溝・千島海溝周辺海溝型地震に関する調査研究, 代表, 高波鐵夫(北大), 長谷川昭・海野徳仁(東北大), 小原一成(防災科技研)ほか, 15名, 総額約1,000,000千円, 2004.10-2009.3.

次世代インライン型システムの検討 - 海底ケーブル・インライン式海底地震計の開発, 代表, 佐野修・歌田久司・森田裕一・塩原肇・篠原雅尚・酒井慎一・望月公廣・山田知明(地震研), 8名, 総額約74,000千円, 2006.7-2010.3.

平成19年度科学研究費(特別研究促進費)2007年新潟県中越沖地震に関する総合調査, 分担, 岩崎貴哉(地震研究所)・三浦哲(東北大)・壁谷澤寿海(地震研究所)・多々納裕一(京都大学)ほか, 30名, 総額23,250千円, 2007.7-2008.3.

平成19年度科学技術振興調整費 平成19年(2007年)新潟県中越沖地震に関する緊急調査研究, 分担, 佐藤比呂志・篠原雅尚・望月公廣・山田知朗・岩崎貴哉・加藤愛太郎・蔵下英司(地震研究所), 8名, 21,450千円, 2007.8-2008.3.

佐野 修

- (b) 地震予知協議会計画推進部会新たな観測・実験技術開発部会, 部会長, 2003.4-
京都大学共同利用委員会, 委員, 2003.11-
IODP国内科学計画委員会 技術開発専門部会, 技術開発専門部会委員, 2005.4-2007.3.
地震予知総合研究振興会, 運営委員会委員, 2005.4-
東濃地震科学研究所地殻活動研究委員会, 委員, 2005.4-
IODP国内科学計画委員会 技術開発専門部会, 技術開発専門部会委員, 2007.4-
IODP技術開発推進専門部会, 部会長, 2008.4-
IODP INVEST委員会, 委員, 2008.11-

酒井慎一

- (a) IUGG, Prugia, Italy, 10 Jul, 2007.
AGU Fall Meeting, San Francisco, U.S.A., 10 Dec, 2007.
A.S.C.S., Tsukuba, Japan, 25 Nov, 2008.
- (b) 日本地震学会「地震」編集委員会, 委員, 2005.4-2007.3.

篠原 雅尚

- (a) IUGG 2007 Perugia, Perugia, Italy, 11 Jul, 2007.
AGU 2007 Fall Meeting, San Francisco, USA, 11 Dec, 2007.
OCEANS'08, Quebec, Canada, 18 Sep, 2008.
- (b) (社)日本地震学会, 代議員, 2006.5-2008.5.
(社)日本地震学会, 選挙管理委員会委員, 2006.8-2007.5.
海洋調査技術学会, 評議員, 2007.10-2009.9.
(社)日本地震学会, 代議員, 2008.5-2010.5.
- (e) 2007年能登半島地震の余震に関する調査研究, 分担, 金沢敏彦(代表:東大・地震研)・平田直(東大・地震研)・長谷川昭(東北大・理)ほか, 20名, 千円, 2007.4-2008.3.
2007年新潟県中越沖地震に関する総合調査, 分担, 岩崎貴哉(代表:東大・地震研)・平田直(東大・地震研)・金沢敏彦(東大・地震研)ほか, 30名, 千円, 2007.7-2008.3.
沈み込んだ海嶺の地震学的構造探査:大陸成長機構の解明に向けて, 分担, 岩森光(代表:東大・理)・安間了(筑波大・生命)・金沢敏彦(東大・地震研)ほか, 9名, 4,300千円, 2008.4-2010.3.
海底下の大河:地球規模の海洋地殻中の移流と生物地球化学作用, 分担, 浦辺徹郎(代表:東大・理)・沖野郷子(東大・海洋研)・島伸和(神戸大・内海セ)・佐藤暢(専修大・経営)・海野進(金沢大・自然)ほか, 46名, 1,425千円, 2008.4-2012.3.

佃 為成

- (e) 平成18年度地震研究所特定研究(A)「内陸直下地震の予知」, 代表, 佃為成(東大地震研)・山崎晴雄(東京都立大)・植木岳雪(産業総合研究所)塚原弘昭・角野由夫・小林 亘・宮本達矢・渡辺創太(信州大理)・竹内章・渡邊 了・道家涼介(富山大理)長尾年恭・佐柳敬造(東海大)後藤恵之輔(長崎大)山中千博・江本 豊(大阪大), 15名, 31千円, 平成18年度地震研究所特定研究報告「内陸直下地震の予知」, 2006.4-2007.3.
平成19年度地震研究所特定研究(A)「内陸直下地震の予知」, 代表, 佃為成(東大地震研)・山崎晴雄(首都大学東京)・植木岳雪(産業技術総合研究所)塚原弘昭・角野由夫(信州大理)・竹内章・渡邊 了・道家涼介(富山大理工院)長尾年恭・佐柳敬造(東海大)後藤恵之輔(長崎大)山中千博・江崎祐子(大阪大), 13名, 28万千円, 2007.4-2008.3.

五十嵐 俊博

- (a) International Union of Geodesy and Geophysics 2007, Perugia, Italy, 11 Jul, 2007.
7th General Assembly of Asian Seismological Commission and Seismological Society of Japan, 2008 Fall meeting, Tsukuba, Japan, 27 Nov, 2008.
- (b) 日本地震学会広報委員会, 委員, 2001.12-2009.3.
日本地震学会夏の学校委員会, 委員, 2008.4-2009.3.

望月 公廣

山田 知朗

- (a) IUGG 2007, Perugia, Italy, 12 Jul, 2007.
7th General Assembly of Asian Seismological Commission, Tsukuba, Japan, 25 Nov, 2008.
- (b) (社)日本地震学会, 夏の学校委員, 2008.4-2009.3.

地震予知情報センター

佐竹 健治

- (a) International Symposium on the Restoration Program from Giant Earthquakes and Tsunamis, Phuket, Thailand, 22 Jan, 2008.
Follow-up Workshop for the Asian Science and Technology Forum for Disaster, Jakarta, Indonesia, 10 Apr, 2008.
8th Science Council of Asia conference, Qingdao, China, 29 May, 2008.
AOGS 5th annual meeting, Busan, Korea, 19 Jun, 2008.
3rd Regional Symposium on Environment and Natural Resources, Kuala Lumpur, Malaysia, 6 Aug, 2008.
2008 APRU Symposium, Davis, USA, 21 Aug, 2008.
International Conference on Tsunami Warning, Bali, Indonesia, 12 Nov, 2008.
7th Assembly of Asian Seismological Commission, Tsukuba, Japan, 24 Nov, 2008.
AGU Fall Meeting, San Francisco, USA, 18 Dec, 2008.
- (b) 日本地震学会, ASC&SSJ2008 プログラム委員会, 委員, 2008.1-2008.12.
日本地震学会, ASC2008 実行委員会, 委員, 2008.1-2009.3.
土木学会, 原子力土木委員会津波評価部会, 委員, 2008.1-2009.3.
日本地震学会, IASPEI 委員会, 委員, 2008.1-2009.3.
日本地震学会, 代議員, 2008.1-2009.3.
日本地震学会, 論文賞選考委員会, 委員長, 2008.1-2008.5.
日本活断層学会, 理事, 編集委員長, 2008.1-2009.3.
IUGG Tsunami Commission, chair, 2008.1-2011.7.
AOGS, Solid Earth Section President, 2008.1-2008.6.
IASPEI, Executive Committee Member, 2008.1-2011.7.
日本地震学会, 災害調査委員会, 委員, 2008.6-2009.3.
日本地震学会, 理事, 2008.6-2010.5.
日本地震学会 大会企画委員会, 委員長, 2008.6-2010.5.
AOGS, Solid Earth Section Vice President, 2008.6-2009.8.

鷹野 澄

- (a) International Symposium: Fifty Years after IGY, Tsukuba, Japan, 12 Nov, 2008.
2008 ASC meeting, Tsukuba, Japan, 26 Nov, 2008.
- (b) 日本災害情報学会, 広報委員会委員, 2005.4-
日本災害情報学会, デジタル放送研究会委員, 2005.4-
日本地震学会, 代議員, 2005.5-
IT 強震計研究会, 代表, 2006.6-
日本災害情報学会, 第10回学会大会実行委員長, 2008.4-2009.3.
IT 強震計コンソーシアム, 代表, 2008.4-
- (c) JGN2 アワード(アプリケーション賞) 高速広域レイヤー2網によるリアルタイム地震観測波形データ交換システムの構築, 1月17日, 2008.1.17.
- (e) IT 強震計研究会, 代表, 玉置晴朗(株式会社数理設計研究所)ほか, 120名, 千円, 2006.6-2010.3.
IT 強震計コンソーシアム, 代表, 玉置晴朗(株式会社数理設計研究所)ほか, 20名, 3500千円, 2008.4-2009.3.

中川 茂樹

- (a) AGU, サンフランシスコ, 米国, 12 Dec, 2007.
ASC, つくば, 日本, 27 Nov, 2008.
- (b) 地球惑星科学連合大会運営委員会, 情報局長, 2006.6-2007.5.
地球惑星科学連合大会運営委員会, 情報局員, 2007.6-2008.5.
日本地震学会選挙管理委員会, 委員, 2007.9-2008.5.
日本地震学会夏の学校委員会, 委員, 2008.4-2009.3.
日本地震学会大会・企画委員会, 委員, 2008.5-2009.3.
日本地震学会広報委員会, 委員, 2008.5-2009.3.
地球惑星科学連合大会運営委員会, 情報局長, 2008.6-2009.5.
日本地震学会選挙管理委員会, 委員, 2008.11-2009.5.

地球惑星科学連合情報委員会, 委員長, 2008.12–2009.5.

鶴岡 弘

- (a) AGU 2008 Fall Meeting, San Francisco, U.S.A., 17 Dec, 2008.
2008 SCEC Annual Meeting, Palm Springs, U.S.A., 7 Sep, 2008.
7th General Assembly of Asian Seismological Commission, Tsukuba, Japan, 27 Nov, 2008.
- (e) 2001 年以前の低周波微動活動の解明, 分担, 須田直樹, 2 名, 千円, 2005.4–2008.3.
日本列島標準三次元構造モデルの構築, 分担, 平原和朗 (京大), 26 名, 7 732 千円, 2006.4–2007.3.
広帯域地震観測による阿蘇山火山性微動のリアルタイム・モニタリング, 分担, 山本希 (東北大), 2 名, 千円, 2006.4–2007.3.
日本列島標準三次元構造モデルの構築, 分担, 平原和朗 (京大), 名, 千円, 2007.4–2008.3.
日本列島標準三次元構造モデルの構築, 分担, 平原和朗 (京大), 名, 千円, 2008.4–2009.3.
1997 ~ 98 年の深部低周波微動活動の解明, 分担, 須田直樹 (広島大学理学研究科), 2 名, 千円, 2008.4–2009.3.

火山噴火予知研究推進センター

武尾 実

- (a) International Union of Geodesy and Geophysics, Perugia, Italy, 11 Jul, 2007.
The First International Workshop on Rotational Seismology and Engineering Applications, Menlo Park, USA, 18 Sep, 2007.
AGU 2007 Fall Meeting, San Francisco, USA, 10 Dec, 2007.
International Workshop on High Energy Earth Science: Muon and Neutrino Radiography, Tokyo, Japan, 27 Jun, 2008.
- (b) 日本地震学会, 代議員, 2005.4–2007.3.
日本地震学会, 男女共同参画委員会委員, 2006.4–2008.3.
日本地震学会, 代議員, 2007.4–2009.3.
- (e) KM20-Langevin 方程式理論に基づく地震波動の解析手法の開発, 代表, 岡部靖憲 (東大院・情報理工学系研究科), 松浦真也 (東大院・情報理工学系研究科), 5 名, 千円, 2002.4–

藤井 敏嗣

- (a) The 5th International Symposium on "Volcanoes of the World", Jeju Stone Park, Bukjeju County, Korea, 26 May, 2007.
IUGG General Assembly 2007, Perugia, Italy, 10 Jul, 2007.
Cities on Volcanoes 5, Shimabara, Japan, 20 Nov, 2007.
IAVCEI General Assembly 2008, Reykjavik, Iceland, 18 Aug, 2008.
- (b) 財団法人震災予防協会, 理事, 2001.6–2009.5.
IAVCEI, Vice President, 2003.8–2007.7.
東北大学理学研究科・理学部外部評価委員会, 評価委員, 2006.4–2008.3.
日本火山学会, 会長, 2006.7–2008.6.
日本火山学会, 理事, 2006.7–2008.6.
Journal of Disaster Research, Guest editor, 2007.7–2008.8.

渡辺 秀文

- (a) IUGG XXIV General Assembly, Perugia, Italy, 9 Jul, 2007.
The 3rd APRU/AEARU Research Symposium, Jakarta, Indonesia, 22 Jun, 2007.
Cities on Volcanoes 5, Shimabara, Japan, 22 Nov, 2007.
- (b) 財団法人震災予防協会, 評議員, 1995.6–2010.5.
地震・火山噴火予知研究協議会, 火山分科会委員, 2006.5–2010.3.

中田 節也

- (a) Cities on Volcanoes 5, Shimabara, Japan, 19-23 Nov., 2007.
El Chichon Commemorative Conference, San Cristobal de las Casas, Mexico, 20 Mar, 2007.
IUGG2007, Perugia, Italy, 12 Jul, 2007.
AGU fall meeting, San Francisco, USA, 13 Dec, 2007.
IAVCEI, Reykjavik, Iceland, 19 Aug, 2008.
Asian international symposium on modeling of volcanic eruption for volcanic hazard assessment, Bandung, Indonesia, 1 Dec, 2008.
- (b) 土木学会火山工学研究小委員会, 委員, 1995.4–2008.3.
火山噴火予知研究委員会, 委員, 幹事, 1997.10–.
Journal of Volcanology and Geothermal Research, Unzen Drilling special issue, Guest editor, 2005.10–2008.3.
Bulletin of Volcanology, Associate editor, 2005.12–2009.11.

土木学会 / 地盤工学委員会火山工学研究賞委員会, 委員, 2006.4–2007.3.

Cities on Volcanoes 5 conference, 実行委員長, 2006.5–2007.11.

特定非営利活動法人日本火山学会, 副会長 / 理事, 2006.7–2008.6.

Science Committee of IAVCEI 2008, Member, 2006.11–2008.8.

IAVCEI Award Nomination Committee, Chairman, 2007.4–2011.3.

IAVCEI, President, 2007.7–2011.6.

日本地球惑星科学連合法人化準備会 / 整備委員会, 委員, 2008.6–2009.5.

特定非営利活動法人日本火山学会, 理事 / 将来計画委員長, 2008.7–2010.6.

- (e) 日本・ロシア共同研究「火山噴火のモデリングおよびその日本およびカムチャッカ地域の火山への応用」, 分担, 小屋口剛博 (地震研), O. Melnik (Moscow State University), O. Dirksen (IVS, Russian Academy of Science), 安井真也 (日大・文理), 10 名, 千円, 2005.12–2007.6.

地震研究所特定共同研究 B 「長期的火山活動評価の定量化」, 分担, 中川光弘 (北大・理) ほか, 25 名, 千円, 2006.4–2007.3.

地震研究所特定共同研究 B 「長期的火山活動評価の定量化」, 分担, 中川光弘 (北大・理) ほか, 約 25 名, 千円, 2007.4–2008.3.

地震研究所特定共同研究 B 「長期的火山活動評価の定量化」, 分担, 中川光弘 (北大・理) ほか, 約 25 名, 千円, 2008.4–2009.3.

森田 裕一

- (a) 24th IUGG General Meeting, Perugia, Italy, 11 Jul, 2007.

IAVCEI, レイキャビク, アイスランド, 19 Aug, 2008.

- (b) 日本火山学会, 理事, 庶務委員長, 2006.7–2009.6.

大湊 隆雄

- (a) IUGG, Perugia, Italy, 11 Jul, 2007.

Cities on Volcanoes 5, Shimabara, Japan, 19 Nov, 2007.

IAVCEI 2008, Reykjavik, Iceland, 19 Aug, 2008.

- (b) 日本火山学会, 財務委員, 2006.7–2008.6.

ト部 卓

- (b) 日本地震学会, 代議員, 2005.5–2007.5.

日本地震学会, 代議員, 2007.5–2009.5.

及川 純

- (a) IUGG, Perugia, Italy, 10 Jul, 2007.

Cities on Volcanoes 5, Shimabara, Japan, 22 Nov, 2007.

AGU 2007 Fall Meeting, San Francisco, USA, 10 Dec, 2007.

- (b) 日本地球惑星科学連合財務委員会, 委員, 2005.4–2008.3.

- (e) 火山流体のモニタリングと深部マグマ上昇メカニズムの解明, 分担, 川勝 均 (代表: 東大・地震研)・大湊 隆雄 (東大・地震研)・須藤 靖明 (京大・理)・大倉 敬宏 (京大・理)・宇津木 充 (京大・理)・金嶋 聡 (九大・理)・橋本 武志 (北大・理)・山本 希 (東北大・理), 9 名, 千円, 2003.4–2007.3.

広帯域高感度圧力計を用いた爆発的噴火に伴う長周期圧力変動発生機構の研究, 分担, 綿田辰吾 (代表: 東大・地震研)・井口正人 (京大・防災研)・為栗建 (京大・防災研), 4 名, 千円, 2006.4–2007.3.

金子 隆之

- (a) International Science Russian-Japanese Symposium, Yuzhno-Kunashiri, Russia, 6 Oct, 2007.

APRU/AEARU, Jakarta, Indonesia, 22 Jun, 2007.

IUGG, Perugia, Italy, 9 Jul, 2007.

Cities on Volcanoes, Shimabara, Japan, 22 Nov, 2007.

IAVCEI 2008, Reykjavik, Iceland, 19 Aug, 2008.

- (b) 日本火山学会, 他学会連絡担当, 2004.4–2009.4.

市原 美恵

- (a) 2007 Fall Meeting, American Geophysical Union, San Francisco, USA, 10 Dec, 2007.

International Association of Volcanology and Chemistry of the Earth Interior, General Assembly 2008, Reykjavik, Iceland, 19 Aug, 2008.

The 9th Biennial ASME Conference on Engineering Systems Design and Analysis, Haifa, Israel, 8 Jul, 2008.

青木 陽介

- (a) IAVCEI General Assembly, Reykjavik, Iceland, 19 Aug, 2008.

Asian International Symposium on modeling of volcanic eruption for volcanic hazard assessment, Bandung, Indonesia, 2 Dec, 2008.

- (b) 日本火山学会, 大会委員, 2004.10–2009.12.

日本地球惑星科学連合, コンピューナー 活動的火山, 2005.10–2009.12.

小山 崇夫

- (a) IUGG2007, Perugia, Italy, 9 Jul, 2007.
IAVCEI 2008 General Assembly, Reykjavik, Iceland, 19 Aug, 2008.
The 19th International Workshop on EM Induction in The Earth, Beijing, China, 24 Oct, 2008.

前野 深

- (a) International Union of Geodesy and Geophysics, Perugia, Italy, 7 Jul, 2007.
Cities on Volcanoes 5, Shimabara, Japan, 20 Nov, 2007.
Workshop on Volcanology by OVPF/IPGP and ERI, Reunion, France, 19 Mar, 2008.
IAVCEI General Assembly, Reykjavik, Iceland, 19 Aug, 2008.
- (b) 日本火山学会, HP 委員会, 2008.4-.
- (c) 日本火山学会研究奨励賞, 5月27日, 2008.5.27.
国際火山学及び地球内部化学協会 (IAVCEI) George Walker Award, 8月19日, 2008.8.19.
- (e) 基盤A海外「中国白頭山火山の活動史とマグマについての日中朝3カ国共同研究」, 分担, 谷口宏充 (代表 : 東北大・東北アジア) ほか, 名, 千円, 2007.4-2009.3.

海半球観測研究センター

川勝 均

- (a) Workshop on Geophysical Research in International Polar Year 2007-2008, Tokyo, Japan, 28 Feb, 2007.
Gloria Symposium, Yokohama, Japan, 23 Mar, 2007.
IUGG (International Union of Geodesy and Geophysics) XXIV IUGG General Assembly, Perugia, Italy, 6 Jul, 2007.
Joint NSF-MARGINS and IFREE Workshop: Subduction Factory Studies in the Izu-Bonin-Mariana, Honolulu, USA/JAPAN, 8 Nov, 2007.
American Geophysical Union, San Francisco, USA, 14 Dec, 2007.
American Geophysical Union, San Francisco, USA, 15 Dec, 2008.
- (b) 日本地震学会, 代議員, 2002.4-2008.3.

歌田 久司

- (a) XXIV IUGG General Assembly, Perugia, Italy, 6 Jul, 2007.
International Workshop on Ocean Observatory network, Tokyo, Japan, 11 Mar, 2008.
19th Workshop on Electromagnetic Induction in the Earth, 北京, 中国, 27 Oct, 2008.
AGU fall meeting, San Francisco, USA, 19 Dec, 2008.
- (b) IAGA General Assembly, Convener, 1997.7-.
財団法人震災予防協会, 評議員, 2000.5-2008.3.
地球電磁気・地球惑星圏学会 CA 研究分科会, 幹事, 2002.4-2008.3.
IUGG General Assembly, Convener, 2003.7-.
地球電磁気・地球惑星圏学会, 副会長, 2005.4-2007.3.
International Ocean Network (ION), IAGA Liaison, 2005.8-2009.8.
IAGA General Assembly, Convener, 2006.7-.
日本学術会議 IAGA 小委員会, 委員, 2006.10-2008.9.
地球電磁気・地球惑星圏学会, 会長, 2007.4-2009.3.
IAGA/IASPEI Working Group on the re-use of submarine telephone cables, IASPEI representative, 2007.8-2011.7.
日本学術会議 IAGA 小委員会, 委員長, 2007.10-2008.9.
日本学術会議 IAGA 小委員会, 委員, 2008.10-2011.9.
- (e) 太平洋における海底ケーブルネットワークによる電位差観測, 代表, A.D. Chave (WoodsHole 海洋研究所), A. Flosadottir (NOAA PMEL), 5, 1991.4-.
日本海ケーブルによる電位差観測, 代表, N. A. Palshin, and R.D. Medzhitov (P.P.Shirshov 海洋研究所), 6, 1994.4-.
中国東北部における電磁気観測, 代表, 趙 國澤 (中国地震局地質研究所), 5, 1998.4-.
ロシア沿海州における地球電磁気観測, 代表, V. Nikiforov (ウラジオストック太平洋海洋研究所), 5, 2000.4-.
太平洋域ネットワーク観測による地球内部の構造とダイナミクスの解明, 代表, 末次大輔 (海洋研究開発機構), 15名名, 20,000千円, 2004.4-2008.3.

塩原 肇

山野 誠

- (a) International Symposium on "Current Problem in Groundwater Management and Related Water Resources Issues", Kuta, Bali, Indonesia, 4 Dec, 2007.

RIHN Workshop "Human Impacts on Urban Subsurface Environments", Kuta, Bali, Indonesia, 8 Dec, 2007.

5th Annual Meeting of the Asia Oceania Geosciences Society, Busan, Korea, 16 Jun, 2008.

5th Annual Meeting of the Asia Oceania Geosciences Society, Busan, Korea, 18 Jun, 2008.

HydroChange 2008, Kyoto, Japan, 2 Oct, 2008.

- (b) 日本地球惑星科学連合, 教育問題検討委員会委員, 2005.7-2009.5.
日本地球惑星科学連合, 男女共同参画委員会委員, 2006.5-2009.4.
- (e) 科学研究費(基盤(B)(2))「浅海域における熱流量測定による南海トラフ地震発生帯の温度構造の研究」, 代表, 日比谷紀之(東大・理)・芦寿一郎(東大・海洋研)・木下正高(JAMSTEC)・松林修(産総研), 5名, 16,500千円, 2004.4-2007.3.
「都市の地下環境に残る人間活動の影響」, 分担, 谷口真人(代表:総合地球環境学研究所)ほか, 約40名, 2005.4-2011.3.
科学研究費(基盤(B))「日本海溝に沈み込む太平洋プレートの温度構造と水の分布の研究」, 代表, 瀬野徹三・馬場聖至・木下正高(JAMSTEC)・後藤忠徳(JAMSTEC)・後藤秀作(産総研)・山本順司(京大・理), 7名, 14,300千円, 2007.4-2010.3.

馬場 聖至

- (a) IUGG 2007, Perugia, Italy, Jun. 30 - Jul. 11, 2007.
AGU 2007 fall meeting, San Francisco, USA, Dec.10-14, 2007.
The 19th International Workshop on Electromagnetic Induction in the Earth, Beijing, China, Oct. 24-29, 2008.
- (c) 地球電磁気・地球惑星圏学会大林奨励賞, 10月11日, 2008.10.11.
- (e) 海底電位磁力計による沈みこみ・前弧・島弧・背弧系(中部マリアナ海域)の横断探査, 分担, 島伸和(代表:神戸大), 7名, 千円, 2003.4-2007.3.
1億3千万年前の白亜紀太平洋プレート上で活動する新しい海底火山の形成過程解明, 分担, 阿部なつ江(代表:IFREE/JAMSTEC), 7名, 千円, 2005.4-2008.3.
日本海溝に沈み込む太平洋プレートの温度構造と水の分布の研究, 分担, 山野誠(代表:東大・地震研)ほか, 7名, 千円, 2007.4-2010.3.
プチスポット総合研究 - 岩石学と海域調査:海洋リソスフェア発達過程解明に向けて, 分担, 阿部なつ江(代表:海洋研究開発機構)・荒井章司(金沢大学)・富士原敏也(海洋研究開発機構)・杉岡裕子(海洋研究開発機構)・鈴木勝彦(海洋研究開発機構), 6名, 500千円, 2008.4-2012.3.

一瀬 建日

- (a) IUGG2007, Perugia, Italy, 6 Jul, 2007.
IUGG2007, Perugia, Italy, 6 Jul, 2007.
- (b) 地震学会, 夏の学校委員会, 委員, 2008.4-2009.3.
- (e) 科学研究費(基盤(A))「海底地震・電磁気観測によるポリネシア・マントルブルームの実態解明」, 分担, 末次大輔(代表:JAMSTEC・IFREE)ほか, 9名, 千円, 2007.4-2011.3.
科学研究費(基盤(S))「NECESSArray計画-中国大陸からみる地球内部ダイナミクス」, 分担, 川勝均(代表:東大・地震研)ほか, 10名, 千円, 2007.4-
科学研究費(萌芽)「内核反射波による地球中心への地震学的挑戦」, 分担, 田中 聡(代表:JAMSTEC・IFREE), 2名, 千円, 2007.4-2010.3.

西田 究

- (a) ICTCA 2007, Heraklion, Crete, GRRECE, 7 Jul, 2007.
AGU, San Francisco, USA, 17 Dec, 2008.
- (b) 日本地震学会, 広報委員, 2004.4.
日本地震学会 ASC&SSJ2008, プログラム委員, 2007.12-2008.12.
日本地震学会夏の学校委員会, 委員, 2008.4 2009.3.
地感連合情報システム委員, 副委員長, 2008.12-2009.5.
地感連合同大会運営委員会, 情報局副局長, 2008.5-2009.5.
2009年度日本地震学会の代議員選挙管理委員, 2008.11-2010.12.

清水 久芳

- (a) IUGG 2007, Perugia, Italy, 9 Jul, 2008.
International Workshop on the Transport Properties of the Lower Mantle, Yunishigawa, Japan, 23 Oct, 2008.
- (b) 地球電磁気・地球惑星圏学会, 運営委員, 2007.4-2009.3.
- (e) 月周回衛星 SELENE プロジェクト, 分担, 滝澤悦貞(宇宙航空研究開発機構)・綱川秀夫(東工大), 約200名, 千円, 1997.4-2010.3.

竹内 希

- (a) IUGG XXIV General Assmby, Perugia, Italy, 5 Jul, 2007.
AOGS 2008, Busan, Korea, 20 Jun, 2008.
7th General Assembly of Asian Seismological Commission, Tsukuba, Japan, 25 Nov, 2008.
- (b) 日本地球惑星科学連合大会運営委員会, 委員, 2005.5-2008.11.
- (e) 地震環境としての日本列島:標準構造モデル・基準波動場の構築, 分担, 鶴岡弘(代表:東大・地震研)ほか, 7

名, 0 千円, 2003.4–2007.3.
スタグナントスラブ・マントルダイナミクスの新展開, 分担, 深尾良夫 (代表: 東大・地震研) ほか, 約 40 名, 0 千円, 2004.4–2009.3.
広帯域地震波形データを用いた波形インバージョンによる異方性構造推定の詳細化, 分担, ゲラーロパート (代表: 東大理), 2 名, 0 千円, 2005.4–2008.3.
NECESSArray 計画 中国大陸からみる地球内部ダイナミクス, 分担, 川勝均 (代表: 東大・地震研) ほか, 10 名, 千円, 2007.4–.

綿田 辰吾

- (a) IUGG 2007, Perugia, Italy, 7 Jul, 2007.
2007 Infrasound Technology Workshop, 東京, 日本, 14 Nov, 2007.
2008 Americal Geophysical Union Fall Meeting, San Francisco, USA, 16 Dec, 2008.
- (b) 日本地震学会, 代議員, 2006.5–2008.4.
日本地震学会, 地震, 編集委員会, 編集委員, 2007.4–2009.3.
- (e) 微気圧アレー観測の新展開による常時大気自由振動の検出, 分担, 深尾良夫 (代表: 海洋開発機構), 西田究, 小林直樹 (東工大・理), 4 名, 千円, 2005.4–2007.3.
神岡山頂における気圧観測 – 3 次元気圧データによる精密重力補正, 分担, 今西祐一 (代表: 海洋研), 森井互 (京大防災研), 3 名, 千円, 2006.4–2008.3.
広帯域高感度圧力計を用いた爆発的噴火に伴う長周期圧力変動発生機構の研究, 代表, 及川純, 井口正人 (京大・防災研), 為栗健 (京大・防災研), 4 名, 884 千円, 2006.4–2007.2.
4 次元 GPS トモグラフィーによる地震動に伴う電離層内短周期波動現象の解明に関する研究, 代表, 小沢慎三郎 (国土地理院), 2 名, 千円, 2007.8–2010.3.
多点展開を目指したサーボ型高精度微気圧計の開発, 分担, 今西祐一 (海洋研), 4 名, 2200 千円, 2008.4–2010.3.
4 次元 GPS トモグラフィーによる地震動に伴う電離層内短周期波動現象の解明, 分担, 大林政行 (海洋開発機構)・小沢慎三郎 (国土地理院), 3 名, 2500 千円, 2008.4–2012.3.
リアルタイム火山爆発強度指標決定に関する研究, 分担, 井口正人 (京大・防災研), 為栗 健 (京大・防災研), 嶋野岳人 (富士常葉・環境防災), 八木原 寛 (鹿大・理), 及川 純 (地震研), 6 名, 640 千円, 2008.4–2011.3.

アウトリーチ推進室

辻 宏道

- (a) IUGG XXIV General Assembly, Perugia, Italy, 12 Jul, 2007.
7th General Assembly of Asian Seismological Commission, つくば市, 日本, 25 Nov, 2008.
- (b) 日本地震学会, 普及行事委員会委員, 2006.4–2009.3.
日本測地学会, 評議員, 2006.4–2008.3.
AGU Education Award Committee, member, 2006.10–2008.9.

大木 聖子

- (a) 2007 AGU Fall Meeting, San Francisco, USA, 10 Dec, 2007.
South California Earthquake Center Annual Meeting, Palm Springs, USA, 6 Sep, 2008
2008 AGU Fall Meeting, San Francisco, USA, 19 Dec, 2008.
- (b) 地震学会, 学校教育委員会, 2008.4–.
地震学会, 普及行事委員会, 2008.4–.
地震学会, 男女共同参画委員会, 2008–.
地球惑星科学連合, アウトリーチ委員会, 2008.4–.
災害情報学会, 大会実行委員会, 2008.4–.